

新年のごあいさつ



新年、あけましておめでとうございます。おめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた新春を、お健やかに迎えることと心からお喜び申し上げます。

昨年は、民生委員制度創設90周年の節目にあたり、広く地域住民との連携の下に日常的な見守り活動や災害時の要援護者の安否確認などの取組の強化が再認識された年でもありました。関係者の皆様のご協力で厚く感謝申し上げます。さて、基礎構造改革以降の社会福祉には、個人の尊厳を守ることが基本理念として位置づけられました。あらゆる福祉の仕組みが、その一点を指していると言うことができます。社会福祉協議会においても、一人ひとりの住民が、自分らしく、安全に安心して暮らせるよう、福祉サービス利用者の権利擁護や苦情解決など具体的な

沖縄県社会福祉協議会
沖縄県共同募金会

会長 呉屋 秀信

支援システムの強化に努めてきましたが、年々増加する家庭内外の虐待や様々な権利侵害は、地域福祉の大きな課題となっております。

新年は、誰もが個人の尊厳を認められ、お互いに支えあうことのできる地域社会の実現を目指して幅広い団体との連携・協働を進めるとともに、地域福祉の主体となる住民活動の基盤強化を通して「地域の福祉力」向上に取り組んでまいります。

年の初めにあたり、県民の皆様のですますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに社会福祉に対するなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

平成20年元旦



ほっとニュース TOPICS Vol.117

使い勝手に とことんこだわる

義肢装具士 佐喜眞保氏

宜野湾市愛知の住宅街の中に株式会社佐喜眞義肢がある。代表を務める佐喜眞氏が27年前、夫婦2人で始めた事業も今では従業員13名となり、電話や来客への対応に追われた活気のある事務所だ。

義肢装具の仕事が始めるまで

幼少期に患った結核性脊椎カリエスによって、腰から胸までコルセットを装着し、痛みと障害を抱えた自分自身のコンプレックスと戦い続け



▲「ものづくり日本大賞」を始め数々の賞を受賞しているCBブレースのポスターの前に立つ佐喜眞氏

たという佐喜眞氏。県外の鉄工所で働き、ものづくりに携わる中、現場での事故により1年の療養生活を余儀なくされ、沖縄に戻ってきた。その時、福祉事務所の職員に勧められ福岡県の身体障害者職業訓練校で義肢装具について学ぶ。鉄工所での経験があった佐喜眞氏にとっては、学校の訓練だけでは物足りなく、訓練校に通いながら、義肢製作所に弟子入りするなどして技術を身に付けていった。卒業後、沖縄で開業するもなかなか仕事の依頼がなく、車いすや装具の修理をしながらの厳しい状況だったと言う。

使う人に向き合って高めた技術

しかし、溶接技術のある佐喜眞氏の修理は評判良く、利用者の口コミで「あそこに頼めば、自分の注文どおりに作ってくれるよ」と次第にお客が増えてきた。「もちろん、義肢装具の専門的な勉強もたくさんしたけど、それよりも使う人の立場になって作っていった。装具が合わなくて、結局使わずにしまわれると意味が無いからね。鉄工所の経験を活かして、どうしたら、要望に応えられるか試行錯誤しながら作っていたよ」と佐喜眞氏は振り返る。一人ひとりの身体や症状が異なる中、全ての人に満足してもらえら

総勢500名余のボランティア 芸能チャリティー公演で 演舞披露

本会主催による「第11回芸能チャリティー公演」が11月18日(日)、那覇市民会館で開催された。本公演は八重山民謡の重鎮である山里勇吉氏が企画し、県内の琉舞や日舞、民謡等の研究所の方々総勢500名余がボランティアで参加。昼、夜の2回公演で約900名の観客が来場し、「かぎやで風」「御縁節」「揚作田節」の華やかな幕開きを始め、日本舞踊や民謡、演歌などバラエティに富んだ演目が披露された。



▲荘厳な幕開けを飾る器楽合奏

また、公演終了後には協賛企業から提供いただいた景品の抽選会を行うなど最後まで来場者に楽しんでもらった。11回を数えるこれまでの公

のを作るのは容易ではない。時に、障害を負った事実の受容さえままならない状況下で、人はどれだけのいきりや自分の要望を他人へ伝える事が出来るであろうか。そのような問いに対して、佐喜眞氏は「初対面が大事。相手の気持ちを読み取るために、こういった性格なのかをしっかりと観察するんだよ」とのこと。忙しいはずなのに温かい眼差しで、話を急がずにじっくりと聴き、取材にも丁寧を受け答えする佐喜眞氏の表情には、自信に満ちた安心感を覚えた。オリジナル間接装具として特許を取得したCBブレースにたどり着くまでには、様々な失敗や困難があったという。それでも「求める人が来るから、それに応えてきただけ。私はお客に動かされてきたんだよ」と利用者主体のものづくりを語る。

希望を与える仕事、義肢装具士

佐喜眞氏自身、実務経験と定められた講習を受講して国家試験を受験し、平成5年に取得した義肢装具士だが、県内には受験資格を得るための養成校がない。失われた機能の回復を図る「装具療法には夢がある」というこの職業を県内でも多くの人が目指してもらえよう。「沖縄にも養成校を作りたいんだ」と話す口調に力を込めた。

演の収益金は約1850万円にも上り、本会の福祉活動推進の主要な財源となっている。関係者各位の皆様のご協力ありがとうございました。



▲華麗な舞いと演奏が披露された

2/24 第34回 芸能の夕べを開催

県社協では「社会福祉活動資金づくり・第34回芸能の夕べ」を左記のとおり開催します。皆様のご来場をお待ちしております。

お問合せは県社協総務部まで。
▼日 時 11月24日(日)

▼開 場 17時30分開場 18時開演

▼協 賛 1 宜野湾市民会館
2 山流尺八楽会沖縄県支部、都

3 西川流沖縄県支部、生田
4 流箏曲沖縄筑紫会
▼入場料 1枚1500円

新採用

職員紹介

沖縄県社協で新採用した 職員の紹介です。



総務部 主事 山入端 涼

11月から働いている、山入端です。私が担当する総務部は、職員の方々が気持ちよく福祉活動に従事できるように、縁の下で力持ちとなってサポートしていく事が大きな役割だと感じています。

しかし、働いて間もない私は、手助けはおろか、まだまだ迷惑をかけてばかりの日々です。一日でも早く、皆さんのお役に立てるよう、頑張っていきます。地域住民をはじめとする多くの方々喜んでいただけよう、間接的にはありますが、業務に専念していきますので、これからよろしくお祈いします！